

MOMOYAMA PLAN (MVP)

桃山学院第二期中長期ビジョン



学校法人 桃山学院

2013年



第二期中長期ビジョン策定にあたって

■ 桃山学院の教育理念

グローバル化や情報化の進展、少子高齢化など社会の急激な変化に対応するための基点として、本学院の教育理念に立ち返り、これを再確認します。

「自由と愛の精神」に根ざし、 共に考え行動する「世界の市民」の養成

■ キリスト教精神および聖公会について

本学院はC.F.ワレン師をはじめとする英国聖公会の人びとによって建てられました。この「聖公会」の信仰を基盤として生まれた本学院の学院章には、“SEQUIMINI ME”(我に従え)《マルコによる福音書1章17節》という言葉が刻まれています。これはイエスの最初の弟子となったアンデレが、「わたしについてきなさい」とイエスに呼びかけられた言葉です。この呼びかけは私たち桃山学院の構成員への呼びかけでもありと理解し、学院のモットーとして学院章に掲げています。

アンデレは、イエスを神の子・キリストと信じ、イエスが教えた「自由と愛の精神」をもって生きることを自らの使命として選び、生涯を通してこれに従いました。そして迫害にも動じることなくイエスへの信仰を貫き通して、ついに殉教しました。

学院章にある「アンデレ・クロス」(X字型の十字架)は、殉教したアンデレがX字型の十字架に架けられたことがその由来です。



C.F.ワレン師
Charles Fredrick Warren
1841-1899

■ 第一期中長期ビジョンの継承と発展

2005年に策定された第一期中長期ビジョンは2014年度を目標年度としていました。近年、大学・高校・中学を取り巻く環境が大きく変化してきたことから、同ビジョンを2か年前倒しで終了させ、その成果と課題を踏まえて現状に対応した目標と施策を提示したものが第二期中長期ビジョンです。第一期中長期ビジョンの方向性(地域貢献、国際交流、職業教育、外国語教育、健康・スポーツ振興)は、第二期中長期ビジョンの基点として継承し、教育研究の更なる発展をめざし改革を推進します。

■ 第二期中長期ビジョンの位置づけと実現へのプロセスについて

学院の教育理念および学院の諸部門における建学の精神、ミッションステートメントに基づき、2013年度から2022年度の10年間における学院の経営目標ならびに学院の諸部門における教育・研究・社会活動の目標と、その目標達成に必要な諸施策を提示します。これに基づいて各年度における事業計画で具体的な行動スケジュールを立て、PDCAサイクル*を回すことにより、目標達成を確実にします。目標達成までのプロセスについては、毎年度公表します。

*Plan(計画)、Do(実行)、Check(確認)、Action(行動)の4つで構成されるマネジメントサイクル

教育理念・ミッションステートメント

中長期ビジョン(目標と具体的施策)

学院中期経営計画・各年度事業計画策定

PDCAサイクル(目標達成の検証・計画の見直し)

II

大学の中長期ビジョン

桃山学院大学ミッションステートメント(社会的使命)

桃山学院大学は、自由と愛の精神に基づく学びの場として、ここに集うすべての人の多様な価値観を認め合いながら、向上心を絶やさず、みずから考え、積極的に行動する世界の市民を育むことを使命とする。

Vision ~10年後の大学像~

地域に根ざし、世界に通用する 桃山学院大学へ

地域の知のセンターとしての役割を果たしつつ、国籍や年齢を問わず、広く世界から質の高い教育を求めて学生が集い、世界の市民として巣立っていく、これからのグローバル社会に求められる大学へ。桃山学院大学は、新たな大学の姿へ生まれ変わります。

そのために、ミッションステートメントに基づく教育改革を推進し、アクティブな人材を社会に輩出していきます。

今後5年間で本学の社会的評価を高め、10年後には国際的な大学評価に対応できるように大学改革に取り組みます。



改革1 2018年 までの目標 就職率と学生満足度100%をめざし、教育改革を推進します。

実行プラン1 社会のニーズに合う高水準の専門教育を提供します。

「文系総合大学」の領域を超えて新たな教育・研究分野での新学部設置をめざします。また、既存学部についても、社会のニーズに応える学科・コースの再編を計画します。

実行プラン2 協調性、主体性、積極性を涵養する教育を行います。

少人数教育と課題解決型学習等の実践教育を実施します。また、学習支援センター、ラーニングコモンズ(学習空間)など、学生が自ら学び、考え、行動する環境を整えます。

高い専門知識を身に付け、社会で活躍できる協調性、意欲、向上心を備えた「アクティブな人材」を輩出します。就職希望者の就職率と満足度100%をめざし、大学の社会的評価を私学トップクラスに高めます。

改革2 2022年 までの目標 グローバルスタンダードに基づく教育を行う、「真の国際化」を推進します。

実行プラン1

英語による講義の拡充と必修化を進め、外国人留学生とともに学び、英語のみで卒業資格を得られるプログラムを実施します。また、これらのプログラムを最大限に活用できるよう、英語教育の強化を行います。

実行プラン2

グローバル人材を教職員として積極的に採用・育成するとともに、世界22か国・地域、55の大学・機関との交流協定を「真の国際化」に合わせて発展させ、学内のグローバル化と留学機会の拡大を推進します。

立場や文化の相違を超えて、論理的に課題を解決できる知識とコミュニケーション能力を備えた「世界の市民として活躍できる人材」を輩出します。2022年に、国際機関による大学認証を取得し、「世界に通用する桃山学院大学」となることをめざします。

改革3 2022年 までの目標 あらゆる世代のニーズに応える生涯学習の場として展開します。

実行プラン1

社会人のキャリアアップや、子育てを終えた方々の再就職を応援する多様なプログラムを開発、提供します。

実行プラン2

和泉市および近隣地方自治体との協力関係を進め、「地域の知のセンター」として地域のニーズに応じた教育プログラムを開発します。

卒業生や保護者をはじめとした社会人や地域住民の方々——あらゆる世代に開かれた生涯学習の場として、社会のニーズに応える大学となります。

IV

学院の中長期ビジョン

Vision ~10年後の学院像~

教育改革を支える、 経営基盤の構築へ

桃山学院は、学院の教育理念、すなわち『自由と愛の精神』に根ざし、共に考え行動する『世界の市民』の養成の具現化にむけて、アイデンティティ教育を導入し学生生徒の意欲と帰属意識を高めるとともに、卒業後も続くネットワークを構築し、学院としてのブランディングを高めます。

また、中高と大学の経営母体として、諸経費削減、増収、事業効率改善の各面から安定的な財務基盤を整備するとともに、迅速かつ戦略的な政策推進を可能にする経営ガバナンスを確立します。

次の周年事業となる創立150年を祝福と発展と安心のなかで迎えることができるよう、積極的に教育改革を推進できる経営基盤を整備します。



改革 1 学院ブランディングの確立と校友ネットワークの構築

実行プラン 1

アイデンティティ教育

「桃山らしさ」と「桃山で学ぶ意義」を伝え、在学生の勉学意欲と帰属意識を高めるため、学院共通の教育としてアイデンティティ教育、すなわち自校史・キリスト教(聖公会)に関する教育を行います。

実行プラン 2

社会貢献活動

教育・研究で社会に貢献することは勿論、さまざまな分野で社会のニーズや課題に応じた社会貢献をグローバル展開することで、社会に役立つ学院をめざします。

実行プラン 3

卒業生との連携強化

社会で活躍する卒業生を招いての講演やシンポジウムの開催など、卒業生との緊密なネットワークを形成するため、さらなる組織的整備を進めます。

改革 2 教育改革を支える組織・財務基盤の確立

実行プラン 1

財務基盤の確立

2022年度に、「帰属収支差額比率10%達成」を財務ミッションとし、これを達成するために中期的な学院財政の目標とそのための施策を提示した学院中期経営計画を2013年度から策定します。

実行プラン 2

経営ガバナンスの確立

学院の業務を円滑に行うため、人事・組織改革に取り組むとともに、事業ごとのPDCAサイクル運用や「目標による管理(MBO)」を導入し、経営ガバナンスの確立を図ります。

実行プラン 3

高大連携の推進

中高一貫教育を推進するための具体的なプランとして、セミナー等の高大接続プログラムの充実を図るほか、新規入試制度を導入します。また、高大研究連携も推進します。





学校法人 桃山学院

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1

TEL 0725-54-3131(代表)

<http://www.andrew.ac.jp/gakuin/>